

地域において繋がりを失った当事者が再び繋がるための退院支援・地域定着支援の在り方
～「地域医療支援病院」における医療ソーシャルワーカー (MSW) の
支援実践をめぐるケーススタディの結果から～

社会福祉学専攻 広瀬 和之

本研究の目的は、家族や地域との繋がりを失い、キーパーソン不在や家族疎遠など社会的孤立状態にある患者が急性期医療機関へ入院した局面において、医療ソーシャルワーカー (MSW) がどのような支援を計画・実行し、退院後の地域生活再構築へ繋げているのかを明らかにし、支援モデルとして整理することである。対象は政令指定都市に所在する A 病院とし、過去の支援事例 34 件を抽出して概要分析を行ったうえで、支援プロセスと成果が確認できた 3 事例を詳細に検討した。資料は診療録等の記録、支援関係者からの聞き取りを含む複数の証拠源とし、ケーススタディの手法により分析した。結果として、急性期入院は社会的孤立を顕在化させやすく、当事者は意思決定や生活基盤の維持が不安定となりやすいことが確認された。その中で MSW は早期介入により生活ニーズの把握と意思形成を支え、多職種連携の下で制度利用の調整、退院先や生活環境の確保、退院後の支援体制構築を進めることが、地域生活再建に重要な役割を果たしていた。以上により、A 病院の実践は、退院を支援の「完結」とせず、地域における見守り・モニタリングと支援者間の情報共有を組み込むことで、短期間での再入院予防と地域生活の安定化へ接続する支援構造を形成していることが明らかとなった。本研究で示した枠組みは、家族や社会との繋がりを失った当事者が地域で再び繋がりを得て生活を取り戻すための、効果的な支援モデルとなり得ると結論づけられる。